

## 実践報告資料

研究テーマ 『 自分も友だちも大切に、共に伸びようとする子の育成 』

研究内容 【 (1)、(2)、(3)、(4) 】

学校名 (たつの市立神岡小学校)

**ア 人権教育としてのねらい**  
 将来への夢をもって、自己実現を図ることができるよう、自ら学ぶ力を身に付けることを支援し、自尊感情と確かな人権感覚を培う。  
 認め合い、支え合い、高め合う集団づくりを通して人権尊重の精神に徹し、差別をなくそうとする意欲を高める。

- イ 研究の概要**
- ① 課題解決に向けて計画・実行しふり返る、主体的な学習習慣の育成
  - ② 体験的な活動、効果的な複数指導など授業方法の工夫
  - ③ 助け合い、励まし合い、共に伸びていこうとする、より望ましい集団の育成
  - ④ 生命尊重の精神を培うとともに、自分や友だちも大切にする精神・態度の育成
  - ⑤ 差別や偏見・人権問題の正しい認識と課題解決への意欲を高める授業の創造

| 教科等           | 各教科 (国語)   | 特別の教科 道徳   | 総合的な学習の時間   | 特別活動   |
|---------------|--|--|---|--|
| 指導者           | 3年担任<br>推進教員   | 4年担任<br>推進教員   | 5年担任<br>推進教員  | 全教職員   |
| 実施日           | 10月14日   | 1月28日  | 10月～1月  | 4月～3月  |
| 取組名           | 幸せってなんだろう？   | 誰もが安全で安心して過ごせるためにできることを考えよう  | 皮革を学ぼう  | わんぱく遊び<br>(縦割り班全校遊び)   |
| 目 標           | 「ちいちゃんのかげおくり」を読み、戦争が与えた悲しさや命の大切さを感じ、「幸せ」について考え、戦争のない平和な世の中を願う思いを育む。  | 誰もが安心して過ごせるための工夫について考え、社会の一員として共に過ごしていこうという意欲を高める。   | たつこの革の良さを広めるために努力する人の思いに気付き、地域の皮革産業に誇りをもち、すばらしい地場産業をもつ故郷に対する郷土愛を育む。   | 異学年児童でわんぱく班を構成し、互いの良さを認め合い、協力、実践力、思いやりの心、責任感を育てる。  |
| 資料名           | 「ちいちゃんのかげおくり」<br>(3年国語：光村図書)   | 「どことなくふうができるかな」<br>『ほほえみ』(県教育委員会)  | 「お父さんが作る床革の手袋」<br>(自作教材)  | /  |
| 指導内容や指導方法の工夫等 | 場面と場面をつなげて読み、「ちいちゃん」の気持ちの変化について考えながら、自分の生活や状況との違いについて考えさせ、戦争について感じた思いをまとめさせる。<br>「ちいちゃんのかげおくり」を読み、思ったことや感じたことから戦争が与えた悲しさについて触れ、今の自分の「幸せ」と戦時中の「幸せ」についての考えをまとめ、伝え合う。 | 良太さんが安全で安心して学校生活を過ごすために、自分たちができることはどんなことか考える。<br>誰にとっても過ごしやすい社会について考える。<br>総合的な学習の時間にいろいろな福祉体験学習をしておき、そのことを想起して考えることができるようにする。 | 皮革工場見学や太鼓作り、調べ学習を行い、作業工程や製品に対する理解を深める。<br>革製品の製造、加工に携わる職人さんの努力や工夫について学び地場産業に携わる人々のすばらしさに気付かせる。<br>たつこの市の革製品や携わる職人さんの思いについて正しく知り、郷土神岡のすばらしさについてより自分事として考えられるようにする。 | 異年齢交流が行えるよう全校児童で班編成する。<br>6・5年生が班長・副班長となり、班活動をリードする。<br>班分けは、兄弟姉妹や従兄弟は同じ班にならないように配慮する。<br>夏祭り集会などの児童会主催の行事の中でもわんぱく班での活動を取り入れる。 |